

2021年12月上旬

担い手訪問 意見活発に

JA三原は12月上旬から、田中義彦組合長ら役職員が担い手・認定農業者等との意見交換の訪問巡回を開始しました。

自己改革の一環として、JAへの課題や要望を掘り起こし、組合員の声を事業運営に反映することを目的に取組みます。

この日は「エヒメアヤメの郷」を訪問し、JAから、生産応援事業についてや、園芸品目の振興、農業塾の積極的な開催について説明しました。法人の役員からは、高齢化や後継者不足への施策、営農指導事業の強化、産直市強化などの要望がありました。

田中組合長は「いただいた要望や意見をJA事業に反映していき、自己改革を実践する」と話しました。

役員による訪問と合わせて、今後は、同JA営農指導員や融資担当者などの実務担当者も訪問を行い、組合員の声を聞く運動を強化していきます。

